

国境(くにざかい)

鉢伏山が海近くまで迫るこの地域は、現在では、狭い場所に国道2号、J.R、山陽電鉄と交通機関が集中しています。しかし、古代「山陽道」の時代には海側を通ることができず、山側を迂回して多井畑を通り、塩屋に出るルートだったそうです。現在のようにいつでも海側を通れるようになった時期には諸説がありますが、江戸時代になってからだといわれています。

また、この地域には堺川(境川ともいう)が流れています。この川は、現在の須磨区と垂水区の境界になっていますが、古くは摂津の国と播磨の国の国境でした。これは、単なる国境ではなく、当時の日本の中心であった畿内(首都圏)と畿外との境という重要な意味もあったのです。須磨という地名は、この畿内の隅(スミ)がなまってスマとなり、「須磨」の字が定着したといわれています。

交通の難所であったこの地を旅した人々の苦勞を思い浮かべながら歩いてみたいものです。

主な見どころ

潮音寺
昭和49年(1974)に建立本尊は十一面観世音菩薩境内には室町時代の石仏不動明王などがある。

安徳帝内裏跡伝説地
安徳帝とは平清盛の娘建礼門院隆子(母として生まれ、壇ノ浦で入水された)と伝えられる悲劇の幼帝。この伝説地は平家一門とともに西へ都落ちする途中、一の谷に一時内裏を置かれたこと言い伝えによる。摂津名所図会にも「内裏跡」として描かれている。

みどりの塔
昭和29年(1954)4月に開催された国土緑化大会植樹祭の時に、天皇、皇后両陛下の御来神記念として作られた。彫刻は新谷英雄氏の作。

戦の浜碑
源平の戦いに際し平氏の陣があったことから、一の谷から西一帯の海岸は戦の浜といわれる。毎年2月7日の夜明けには、重馬のいななく声が聞こえるとも言われている。

敦盛塚
一の谷の合戦で、源氏の並武者・熊谷二郎直実に首をはねられた平敦盛の供養塔といわれてきたが、諸説ある。古来から多くの旅人が香花を捧げてきた。大正時代には子供の病気の神様として信仰されたと伝えられている。

毘沙門天
塩屋村の鬼門にあたる場所にあり、豊漁と繁栄を祈ってまつられている。

西向地蔵
明治、大正時代に塩屋で使われていた地引き綱やんだらにかかって引き上げられた地蔵。西向きにまつたことから西向地蔵として親しまれている。



西向地蔵



10-2



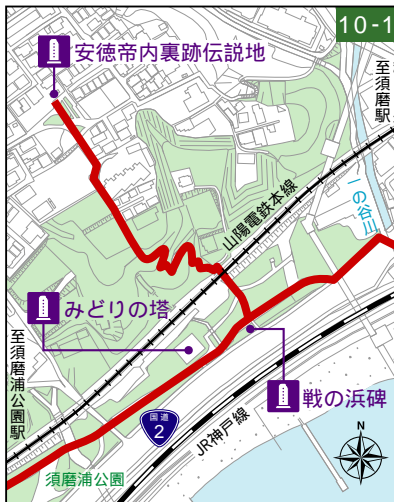
旧後藤邸

塩屋にある異人館
神戸北野と塩屋を舞台にした小説「花の降る午後の映画口ケ」でも使われた異人館である旧後藤邸や旧グッゲンハイム邸などがある。

須磨浦上遊園・ロープウェイ
山陽電鉄須磨浦公園駅からすぐ。すばらしい景色が楽しめる。10時、17時、火曜定休。祝日営業(翌日休み)。350円(155円)(078)7312520

須磨海つり公園
釣り台周辺に魚礁があり、四季を通じて様々な魚が釣れる。6時、21時時期により異なるため要確認。火曜休業(祝日営業)。(078)7302907

塩屋若宮神社
祭神は顕宗天皇、仁賢天皇、安閑天皇。6月1日に夏祭(とん祭)、7月25日に天神祭がある。10月10日の秋祭では子供輿が町内をまわる。



10-1



菅公橋付近(国道2号、JR、山陽電鉄が密集している)

